

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地				
日本工学院専門学校		昭和51年7月1日	山野 大星		〒 144-8655 (住所) 東京都大田区西蒲田5-23-22 (電話) 03-3732-1111				
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地				
学校法人片柳学園		昭和25年3月1日	千葉 茂		〒 144-8655 (住所) 東京都大田区西蒲田5-23-22 (電話) 03-6424-1111				
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
文化・教養	芸術専門課程	コンサート・イベント科		平成21(2009)年度	-	平成27(2015)年度			
学科の目的	コンサート業界・音楽業界で活躍するために必要な「技術」「知識」に加え、魅力的な人物として成長できるための柔軟な発想といかなる場合においても素早く行動できる実践力、社会人として自立できる人間力を養う。								
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	ビジネス能力検定 263名合格、証明技能認定 59名合格、舞台機構調整 26名合格、足場の組立て等作業従事者特別教育 209名合格、フルハーネス型安全帯特別教育 210名合格 中途退学者 26名(3.6%)								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		1,770 単位時間	945 単位時間	0 単位時間	1,680 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
				単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留學生数(生徒実員の内数)(B)		留學生割合(B/A)					
720人	663人	8人		1%					
就職等の状況	■卒業者数(C)		349人						
	■就職希望者数(D)		332人						
	■就職者数(E)		263人						
	■地元就職者数(F)		193人						
	■就職率(E/D)		79%						
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		73%						
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		75%						
	■進学者数		6人						
	■その他								
	進学者数6名: 1名(東京工科大学 メディア学部 メディア学科 3年次編入) 2名(東京工科大学 メディア学部 メディア学科2年次編入) 1名(東海大学 情報通信学部 情報通信学科入学) 1名(デジタルハリウッド大学 デジタルコミュニケーション学部 デジタルコンテンツ学科入学) 1名(国際トラベル・ホテル・ブライダル専門学校 鉄道科入学) その他:80名 (令和4年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)								
■主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) 音楽・コンサート・イベント・ホテルブライダル業界 等(シミズオクト、東芸グループ、総合舞台、ポニーキャニオン、日本ステージ 等)									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載			無					
当該学科のホームページURL	http://www.neec.ac.jp/department/design/graphics/								
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)		総授業時数		2,265 単位時間				
			うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		555 単位時間				
				うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位時間			
				うち必修授業時数		1,020 単位時間			
				うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		510 単位時間			
				うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位時間			
				(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		465 単位時間			
		(B:単位数による算定)		総授業時数		単位			
				うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		単位			
				うち企業等と連携した演習の授業時数		単位			
				うち必修授業時数		単位			
				うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		単位			
				うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		単位			
				(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位			
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)				9人				
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)				3人				
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)				0人				
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)				0人				
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)				1人				
	計				13人				
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				5人					

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

コンサート・音楽業界に関し、適宜、企業等へのヒアリングを実施し、実務に関する知識、技術を調査して、カリキュラムに反映させる。また、年度毎に既存のカリキュラムについて総合的に検証する。授業科目のシラバスをもとに、科目担当教員と企業講師との間で意見交換を行い、内容や評価方法を定める。また、学習評価を踏まえ、授業内容及び方法について検証する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、校長を委員長とし、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員、学科から委嘱された業界団体及び企業関係者から各3名以上を委員として構成する。

本委員会は、産学連携による学科カリキュラム、本学生に対する講義科目および演習、実習、インターンシップおよび学内または学外研修、進級・卒業審査等に関する事項、自己点検・評価に関する事項、その他、企業・業界団体等が必要とする教育内容について審議する。審議の結果を踏まえ、校長、副校長、学科責任者、教育・学生支援部員で検討し次年度のカリキュラム編成へ反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
今泉 裕人	一般社団法人 コンサートプロモーターズ協会 事務局長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	①
今井 常夫	PRG株式会社 代表取締役	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	③
佐藤 純平	株式会社エムエスアイジャパン東京	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	③
山野 大星	日本工学院専門学校 校長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	—
中村 英詞	日本工学院専門学校 ミュージックカレッジ カレッジ長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	—
森永 直樹	日本工学院専門学校 ミュージックカレッジ コンサート・イベント科 科長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	—
大塚 勝哉	日本工学院専門学校 教育・学生支援部 課長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年間開催は2回の予定、開催時期は9月及び3月の予定

(開催日時(実績))

第1回 2023年3月29日

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

教育課程編成委員会から、議事録は新入社員に書かせる企業も多く、文章を要約してまとめるスキルが直ぐに必要なため、新聞記事を要約させて要望があった。現在キャリアデザイン科目で新聞記事要約の取り入れて授業内容を改善し反映させる。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
 コンサート制作・運営・進行・オペレートの実習において、実践的な指導を受けるためにコンサート・音楽業界での実績のある企業を選定している。また、指導を受けるにあたっては各分野で必要となる知識、技術、感性を有している講師の派遣などの協力が得られることが可能な企業を選定している。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
 学科担当教員と連携企業の(株)ホットスタッフ・プロモーションとの間でコンサート技術や知識について意見を交換し、授業計画、評価方法、学生指導上の問題点、改善案などを計画し、実際に年2回(7月・1月)Zepp Haneda等使ってライブ実習を行う。企画立案から本番運営までの過程における授業内容・方法等について検証し、学生指導上での問題点、改善案を話し合う。授業の成果物をもとに派遣講師が採点し、学科担当教員とともに成績評価・単位認定を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
コンサートプロダクト1	コンサート運営に関わる各スタッフの役割を理解しつつ、全てのコースの基礎部分を実習形式で学習します。	株式会社ホットスタッフ・プロモーション/ 株式会社チームアクティブ/合同会社M&S
コンサートプロダクト2	一般照明の種類・効果・照明プランニング、ミキサー・スピーカー・エフェクター・舞台装備などの取り扱い方を習得します。	株式会社ホットスタッフ・プロモーション/ 株式会社チームアクティブ/合同会社M&S
コンサートプロダクト4	2年間の集大成として卒業コンサートを行い、プロアーティストのコンサート全般の運営(企画・制作・舞台・PA・照明)を実施します。	株式会社ホットスタッフ・プロモーション/ 株式会社チームアクティブ/合同会社M&S

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針
 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
 「研修規程第1条 教員が専攻分野における授業科目や授業科目以外の担当業務等指導力の修得と向上を目的として、企業等連携研修を行う講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと、企業等連携研修に関する規定」における目的に沿い、講義と実習、演習の精度を高めるため、学科関連企業の協力のもと学科の内容や教員のスキルに合わせた最新の技術力と技能、人間力を修得させる。また、学校全体の教員研修を実施することにより、学生指導力の向上を図り、次年度へのカリキュラムや学科運営に反映させる。

(2) 研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	学生の芸術的感性の評価方法	連携企業等:	元日本選抜団体チーム(フェアリーJAPANボーラ)所属 平田美沙紀・小西夏生
期間:	2022年8月31日(水)	対象:	コンサート・イベント科教員
内容	新体操に於ける評価観点・評価基準(個人・団体種目)学生の個人・グループワークに学生の芸術的感性の評価方法。代表選出に至る評価プロセス。学生の前後期評価の客観性。評価から導き出された課題の克服方法、学生の課題克服へ向けた取り組み方法。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	「進路指導研修」	連携企業等:	富士通Japan
期間:	2022年10月31日	対象:	コンサート・イベント科教員
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・学科をとりまく内外の問題点を整理し、今後どのような学生を育成していくべきかを検討する。 ・実施方法及び評価方法について・教える上での注意点 		

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	「コロナ禍に於けるライブ配信について」	連携企業等:	合同会社 SALMONSKY
期間:	3月 日程は未定	対象:	コンサート・イベント科 教員
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年度配信における状況・配信ライブに於けるコンサート制作からみる実施のあり方 ・今後の配信ライブにおける役割 		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	「教員研修」	連携企業等:	未定
期間:	3月 日程は未定	対象:	ミュージックカレッジ全教員
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・退学率について ・教育内容の確認と次年度に向けての修正点 ・ICT環境の整備について 		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

専修学校における学校評価ガイドラインに沿っておこなうことを基本とし、自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、客観性や透明性を高める。学校関係者評価委員会として卒業生や地域住民、高等学校教諭、専攻分野の関係団体の関係者等で学校関係者評価委員会を設置し、当該専攻分野における関係団体においては、実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動の改善の参考とし学校全体の専門性や指導力向上を図る。また、学校関係者への理解促進や連携協力により学校評価による改善策などを通じ、学校運営の改善の参考とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生の受入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

精神面による体調不良に悩む学生に対しての当校のサポート体制について委員に現状を説明したところ、多くの委員から以下のご意見を頂いた。

- ・企業内でも新入社員など若手が精神面による体調不良で就業に影響が出るケースが増えている。
- ・原因の一つとして、コロナ禍にあったここ数年で学生時代に人間関係構築の場が少なかった事も影響があるのではないかと。

以上のご意見を踏まえ、当科では以下のように活用していく。

- ・在学中のみならず学生が社会に出てからも心身ともに健康に生活できるよう、学生時代にしか経験できない人間関係構築の場をより多く作り、学業以外のイベントや部活動等に対しても支援に努めていく。
- ・当校には専門的な知識と経験を持つスタッフが在在するヘルスサポートセンターがあり、当科の担任は悩みを持つ学生に対して、ヘルスサポートセンターとの連携をより強め、安心して学生生活を送れるよう支援に努めていく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
桂田 忠明	セントラル電子制御株式会社 最高顧問	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	IT企業等委員 /卒業生委員
正木 英治	株式会社マックス 専務取締役	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	地域関連/ 会計専門委員
平川 進	株式会社テレビ神奈川ecom事業局 ecom事業部	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	クリエイターズ 企業等委員/ 卒業生委員
小澤 賢侍	CG-ARTS協会(公益財団法人 画像情報教育振興協会) 教育事業部教育推進グループセクションチーフ	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	クリエイターズ /デザイン企業 等委員
西川 恭子	一般社団法人 大田工業連合会 事務局長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	テクノロジー 企業等委員
今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	ミュージック 企業等委員
宮地 裕	学校法人上野塾 東京実業高等学校 進路指導部部長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	学校関連

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.neec.ac.jp/public/>

公表時期: 令和5年9月30日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

教育目標や教育活動の計画、実績等について、企業や学生とその保護者に対し、必要な情報を提供して十分な説明を行うことにより、学校の指導方針や課題への対応方策等に関し、企業と教職員と学生や保護者との共通理解が深まり、学校が抱える課題・問題等に関する事項についても信頼関係を強めることにつながる。また、私立学校の定めに基づき「財産目録」「貸借対照表」「収支計算書」「事業報告書」「監事による監査報告」の情報公開を実施している。公開に関する事務は法人経理部において取扱い、「学校法人片柳学園 財務情報に関する書類閲覧内規」に基づいた運用を実施している。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(2) 各学科等の教育	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿
(3) 教職員	教員・教員組織
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職等進路、学外実習・インターンシップ等
(5) 様々な教育活動・教育環境	施設・設備等
(6) 学生の生活支援	中途退学への対応、学生相談
(7) 学生納付金・修学支援	学生生活、学納金
(8) 学校の財務	財務基盤、資金収支計算書、事業活動収支計算書
(9) 学校評価	学校評価
(10) 国際連携の状況	学校の現況、教育理念・目的・育成人材像、事業計画
(11) その他	目標の設定、教育方法・評価等、教員名簿

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他()

URL: <https://www.neec.ac.jp/public/>

公表時期: 令和5年9月30日

授業科目等の概要

(芸術専門課程 コンサート・イベント科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			キャリアプランニング1	自分の人生のキャリアについて、すべてに共通するスキルを学びます。	1・前	30	2	○			○		○		
2	○			キャリアプランニング2	自分の人生のキャリアについて、すべてに共通するスキルを学びます。	1・後	30	2	○			○		○		
3			○	スポーツ実習1	レクリエーションを兼ねた短期のスポーツ講座を、カレッジ全体で行います。	1・通	30	2	○			○		○		
4			○	ボランティア1	社会貢献、地域貢献といった体験を通して、自身も社会に関わる喜びを得ていきます。	1・通	30	2	○			○		○		
5	○			外国語1	ネットなどを通じて音楽が世界に広がっている現在、音楽に必要な外国語を学びます。	1・前	30	2	○			○			○	
6	○			外国語2	ネットなどを通じて音楽が世界に広がっている現在、音楽に必要な外国語を学びます。	1・後	30	2	○			○			○	
7	○			音楽基礎1	音楽に携わる者として必要な基礎知識を学びます。楽譜の読み方をはじめ、コンサートやイベントの業務に合わせた内容も学んでいきます。	1・前	30	2	○			○			○	
8	○			音楽基礎2	音楽に携わる者として必要な基礎知識を学びます。楽譜の読み方をはじめ、コンサートやイベントの業務に合わせた内容も学んでいきます。	1・後	30	2	○			○			○	
9	○			イベント・メディア業界研究1	プロとして知っておくべき名曲をポピュラー音楽を中心に、歴史をたどりながらCD・ビデオ・DVDなどで学びます。またポピュラー音楽以外にクラシックから民族音楽まで、幅広いジャンルの学習を行います。	1・前	30	2	○			○			○	
10	○			イベント・メディア業界研究2	プロとして知っておくべき名曲をポピュラー音楽を中心に、歴史をたどりながらCD・ビデオ・DVDなどで学びます。またポピュラー音楽以外にクラシックから民族音楽まで、幅広いジャンルの学習を行います。	1・後	30	2	○			○			○	
11	○			音楽ビジネス・マネジメント1	音楽業界に就職する際に必要な業界知識やビジネスマナー関わる事を学びます。	1・前	30	2	○			○			○	
12			○	音楽ビジネス・マネジメント2	音楽業界に就職する際に必要な業界知識やビジネスマナー関わる事を学びます。	1・後	30	2	○			○			○	
13	○			ミュージックリテラシー1	音楽業界、音楽に関連した職業に就くための知識の幅を広く学習します。アーティストとともに仕事をするうえで、音楽コンテンツ作成の流れやアーティストの仕事の流れの理解を目的とします。	1・前	30	2	○			○			○	
14	○			ミュージックリテラシー2	音楽業界、音楽に関連した職業に就くための知識の幅を広く学習します。アーティストとともに仕事をするうえで、音楽コンテンツ作成の流れやアーティストの仕事の流れの理解を目的とします。	1・後	30	2	○			○			○	

(芸術専門課程 コンサート・イベント科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
15	○			コンサート概論1	コンサートに関する知識を学び、単なる技術者としてだけでなく業界をリードする人材としての知識、能力も身につけます。	1・前	30	2	○			○			○	
16	○			コンサート概論2	コンサートに関する知識を学び、単なる技術者としてだけでなく業界をリードする人材としての知識、能力も身につけます。	1・後	30	2	○			○			○	
17	○			コンサートプロダクト1	<p><コンサート制作コース> コンセプトメイキングやライブ会場の研究など、企画書作成のノウハウを学びます。</p> <p><コンサートPAコース> 簡単な機材セッティング・マイクの取り扱いなど、基礎技術を習得します。</p> <p><コンサート照明コース> 簡単な機材セッティング・灯体の取り扱いなど、基礎技術を習得します。</p> <p><コンサート舞台コース> 舞台装置の機能やドラム台の組立など、基礎技術を習得します。</p> <p><イベント企画コース> 目的のためには何を行い、どういった結果を出すのか、イベント企画の根本を学習します。</p>	1・前	240	8			○	△	○	△	○	○
18	○			コンサートプロダクト2	<p><コンサート制作コース> コンセプトメイキングやライブ会場の研究など、企画書作成のノウハウを学びます。</p> <p><コンサートPAコース> 簡単な機材セッティング・マイクの取り扱いなど、基礎技術を習得します。</p> <p><コンサート照明コース> 簡単な機材セッティング・灯体の取り扱いなど、基礎技術を習得します。</p> <p><コンサート舞台コース> 舞台装置の機能やドラム台の組立など、基礎技術を習得します。</p> <p><イベント企画コース> 目的のためには何を行い、どういった結果を出すのか、イベント企画の根本を学習します。</p>	1・後	240	8			○	△	○	△	○	○
19			○	ライブステージ鑑賞1	アーティストの生演奏や講演などを聴き、アーティストおよび周辺も含めたプロの技術を学びます。	1・通	15	1	○			○	△	○		○
20			○	キャリアゼミ1	各進路に対応する専門分野の教員が指導するゼミです。	1・後	15	1	○			○		○		
21			○	資格対策講座1	ビジネス能力検定（B検）ジョブパス、JPPA映像音響処理技術者試験、Pro tools、イベント検定試験、MIDI検定、MOSなどの資格受験対策講座です。	1・前	15	1	○			○		○		
22			○	資格対策講座2	ビジネス能力検定（B検）ジョブパス、JPPA映像音響処理技術者試験、Pro tools、イベント検定試験、MIDI検定、MOSなどの資格受験対策講座です。	1・後	15	1	○			○		○		

(芸術専門課程 コンサート・イベント科)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
			○	海外研修	各学科の特色に基づいたプランで、本場のエンタテインメントを体験します。(研修先・行程は毎年異なります。)	1・通	30	1			○	△	○	○		
			○	特別講義 1	特別講師を招いた授業やイベントなどを開催します。	1・前	15	1	○			○		○		
			○	特別講義 2	特別講師を招いた授業やイベントなどを開催します。	1・後	15	1	○			○		○		
			○	インターンシップ 1	本校提携・協力関係の企業で行われる企業研修です。	1・後	15	1	○			○		○		
			○	マルチメジャー 1	自分が選択している専攻・コース以外に、学科の枠にとらわれず幅広く学ぶ授業です。	1・後	30	1			○	○		○		
	○			キャリアプランニング 3	自分の人生のキャリアについて、すべてに共通するスキルを学びます。	2・前	15	1	○			△	○	△	○	
			○	キャリアプランニング 4	自分の人生のキャリアについて、すべてに共通するスキルを学びます。	2・後	30	1			○	○		○		
	○			ビジネストレーニング 1	音楽業界を含む、社会人として必要な事を学び、理解を深めます。	2・通	30	1			○	△	○	○		
			○	ビジネストレーニング 2	音楽業界を含む、社会人として必要な事を学び、理解を深めます。	2・通	30	1			○		○	○		
			○	スポーツ実習 2	レクリエーションを兼ねた短期のスポーツ講座を、カレッジ全体で行います。	2・前	30	1			○	○		○		
			○	ボランティア 2	社会貢献、地域貢献といった体験を通して、自身も社会に関わる喜びを得ていきます。	2・後	30	1			○	○		○		
	○			音楽基礎 3	音楽に携わる者として必要な基礎知識を学びます。楽譜の読み方をはじめ、コンサートやイベントの業務に合わせた内容も学んでいきます。	2・前	30	2	○			○			○	
			○	音楽基礎 4	音楽に携わる者として必要な基礎知識を学びます。楽譜の読み方をはじめ、コンサートやイベントの業務に合わせた内容も学んでいきます。	2・後	30	2	○			○			○	
	○			イベント・メディア業界研究 3	プロとして知っておくべき名曲をポピュラー音楽を中心に、歴史をたどりながらCD・ビデオ・DVDなどで学びます。またポピュラー音楽以外にクラシックから民族音楽まで、幅広いジャンルの学習を行います。	2・前	30	2	○			○			○	
			○	イベント・メディア業界研究 4	プロとして知っておくべき名曲をポピュラー音楽を中心に、歴史をたどりながらCD・ビデオ・DVDなどで学びます。またポピュラー音楽以外にクラシックから民族音楽まで、幅広いジャンルの学習を行います。	2・後	30	2	○			○			○	
	○			ミュージックリテラシー 3	音楽業界、音楽に関連した職業に就くための知識の幅を広く学習します。アーティストとともに仕事をするうえで、音楽コンテンツ作成の流れやアーティストの仕事の流れの理解を目的とします。	2・前	15	1	○			○			○	
			○	ミュージックリテラシー 4	音楽業界、音楽に関連した職業に就くための知識の幅を広く学習します。アーティストとともに仕事をするうえで、音楽コンテンツ作成の流れやアーティストの仕事の流れの理解を目的とします。	2・後	15	1	○			○			○	

(芸術専門課程 コンサート・イベント科)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
40	○			コンサートプロダクト3	<p><コンサート制作コース> 市場調査、ヒットチャート研究などマーケティングを行い、アーティストやジャンルによる客層を把握して、効率的なプロモーション方法を研究します。</p> <p><コンサートPAコース> 大型のミキサーやデジタルミキサーの扱いも習得し、ミキシング技術、本番のオペレートを習得します。</p> <p><コンサート照明コース> ムービングライトの知識や技術や照明プランニング、本番のオペレートを習得します。</p> <p><コンサート舞台コース> CADソフトを使用しての舞台図面作成や舞台進行などを習得します。</p> <p><イベント企画コース> コンサートでのグッズ制作やマーケティングリサーチをもとにした商業施設でのPRイベントやトークショーなどを行い、効果的なプロモーション方法を研究します。</p>	1・前	30	2	○			○		△	○	○
41			○	コンサートプロダクト4	<p><コンサート制作コース> 市場調査、ヒットチャート研究などマーケティングを行い、アーティストやジャンルによる客層を把握して、効率的なプロモーション方法を研究します。</p> <p><コンサートPAコース> 大型のミキサーやデジタルミキサーの扱いも習得し、ミキシング技術、本番のオペレートを習得します。</p> <p><コンサート照明コース> ムービングライトの知識や技術や照明プランニング、本番のオペレートを習得します。</p> <p><コンサート舞台コース> CADソフトを使用しての舞台図面作成や舞台進行などを習得します。</p> <p><イベント企画コース> コンサートでのグッズ制作やマーケティングリサーチをもとにした商業施設でのPRイベントやトークショーなどを行い、効果的なプロモーション方法を研究します。</p>	1・後	30	2	○			○		△	○	○
42			○	カレッジプロジェクト	学生委員会、クラスなどで計画したプロジェクトや自主コンサート、ボランティア活動などを実行します。	1・通	30	2	○			○		○		
43			○	ライブステージ鑑賞2	アーティストの生演奏や講演などを聴き、アーティストおよび周辺も含めたプロの技術を学びます。	1・通	180	6			○	○		○		
44			○	キャリアゼミ2	各進路に対応する専門分他の教員が指導するゼミです	2・前	15	1	○			○		○		
45			○	キャリアゼミ3	各進路に対応する専門分他の教員が指導するゼミです	2・後	15	1	○			○		○		
46			○	資格対策講座3	ビジネス検定、MIDI検定、ラジオ・音響技能検定、JPPA、Pro Tools、イベント検定、Word・Excel検定などの資格受験対策講座です。	2・前	15	1	○			○		○		

(芸術専門課程 コンサート・イベント科)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
47			○	資格対策講座4	ビジネス検定、MIDI検定、ラジオ・音響技能検定、JPPA、Pro Tools、イベント検定、Word・Excel検定などの資格受験対策講座です。	2・後	15	1	○			○		○		
48			○	特別講義3	特別講師を招いた授業やイベントなどを開催します。	2・前	15	1	○			○		△	○	
49			○	特別講義4	特別講師を招いた授業やイベントなどを開催します。	2・後	15	1	○			○		△	○	
50			○	インターンシップ2	本校提携・協力関係の企業で行われる企業研修です。	2・後	450	15				○		○		○
51			○	マルチメジャー2	自分が選択している専攻・コース以外に、学科の枠にとらわれず幅広く学ぶ授業です。	2・前	15	1	○			○		○		
合計						51	科目	122 (2265)			単位 (単位時間)					

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： 卒業時に必修科目1320時間取得および選択科目を450時間以上取得し、合計1770時間以上取得すること		1学年の学期区分	2期
履修方法： 1年次は必修900時間履修すること 2年次は必須420時間、選択科目450時間以上履修すること		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。